

IV 救 急 編

1 救急活動概要

当市における救急業務は、昭和39年7月の業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、平成17年10月11日の3市町合併及び白糠町の消防事務委託を受け現在8救急隊を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命率の向上を目指す。

① 救急救命士の育成・・・有資格者数54人

② 高規格救急自動車の導入状況

平成23年度 中央救急隊更新 (H23. 5.30 運用開始)

平成22年度 武佐救急隊更新 (H23. 2.28 運用開始)

平成21年度 白糠救急隊更新 (H21.11. 5 運用開始)

平成20年度 西救急隊更新 (H20.12.25 運用開始)

平成17年度 阿寒救急隊 (H17.12.15 運用開始)

平成16年度 音別救急隊 (H17. 1.20 運用開始)

平成15年度 中央救急隊更新 (H16. 3. 1 運用開始)

平成15年度 阿寒湖温泉救急隊 (H16. 2. 1 運用開始)

平成14年度 愛国救急隊 (H15. 3. 5 運用開始)

平成13年度 武佐救急隊 (H13. 5.24 運用開始)

平成12年度 西救急隊 (H13. 2.27 運用開始)

平成 9年度 白糠救急隊 (H10. 3. 2 運用開始)

平成 5年度 中央救急隊 (H 6. 1.19 運用開始)

③ 市民による応急手当普及啓発活動の推進

「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」(H19.10.11 施行)

④ メディカルコントロール体制の構築

釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立 (H15.3.26)

⑤ 医師による包括的指示下での除細動の実施 (H15.8.1 開始)

⑥ 気管挿管可能な救急救命士4名(内2名は白糠支署)を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備 (H18.8.1 開始)

⑦ 薬剤投与可能な救急救命士2名(内1名は白糠支署)を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備 (H23.7.1 開始)

⑧ 一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命率の向上を図った。

⑨ 救急需要抑制対策として、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。

(1) 年次別救急出動件数及び搬送人員

平成23年の救急出動件数は9,320件、搬送人員8,653人で、前年に比べ出動件数においては591件(6.77%)の増加、搬送人員においても571人(7.07%)増加した。

これは、管轄区域の住民22人に1人が救急車によって搬送され、また、1日平均約26件、56分に1回出動したことになる。搬送人員を男女別にみると男性4,239人(49.0%)、女性4,414人(51.0%)となっている。

救急出動件数及び搬送人員の推移をみると、表1のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移(過去5カ年)

年別 区分	S39年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
出動件数	145	8,608 (495)	8,442 (487)	8,633 (477)	8,729 (487)	9,320 (488)
搬送人員	119	8,083 (468)	7,833 (445)	8,016 (437)	8,082 (457)	8,653 (462)
1日平均件数	0.4	23.6	23.1	23.6	23.9	25.5

※ 昭和39年は7月から業務開始。

※ ()内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

(2) 平成23年中の救急出動状況等

救急出動件数を事故種別ごとにみると、表2のとおり急病が最も多く、次いで転院、一般負傷、交通事故の順となっている。その他統計資料を以下の表に示す。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	54	1	14	471	80	52	1,065	35	143	6,052	1,241	2	0	110	9,320
割合(%)	0.58	0.01	0.15	5.05	0.86	0.56	11.43	0.38	1.53	64.94	13.31	0.02	0	1.18	100

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	838	696	791	733	790	705	836	823	734	764	738	872	9,320
搬送人員	786	653	726	665	730	655	779	764	680	714	691	810	8,653

表4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	合計
日数	52	52	52	52	52	52	53	365
件数	1,284	1,455	1,318	1,258	1,321	1,363	1,321	9,320
1日平均	24.7	28.0	25.3	24.2	25.4	26.2	24.9	25.5

表5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
件数	439	349	388	651	1,115	1,135	927	900	948	970	834	664	9,320
急病	312	241	286	484	753	628	515	544	563	659	602	465	6,052

表6 年齢別搬送人員状況

区分	新生児	乳幼児	少年	18~29	30~39	40~49	50~59	60~64	65歳以上	合計
人数	4	324	260	482	519	611	831	662	4,960	8,653
割合(%)	0.05	3.75	3	5.57	6	7.06	9.6	7.65	57.32	100

* 年齢区分・・・新生児 → 生後28日未満の者
 乳幼児 → 生後28日以上～7歳未満の者
 少年 → 7歳以上～18歳未満の者

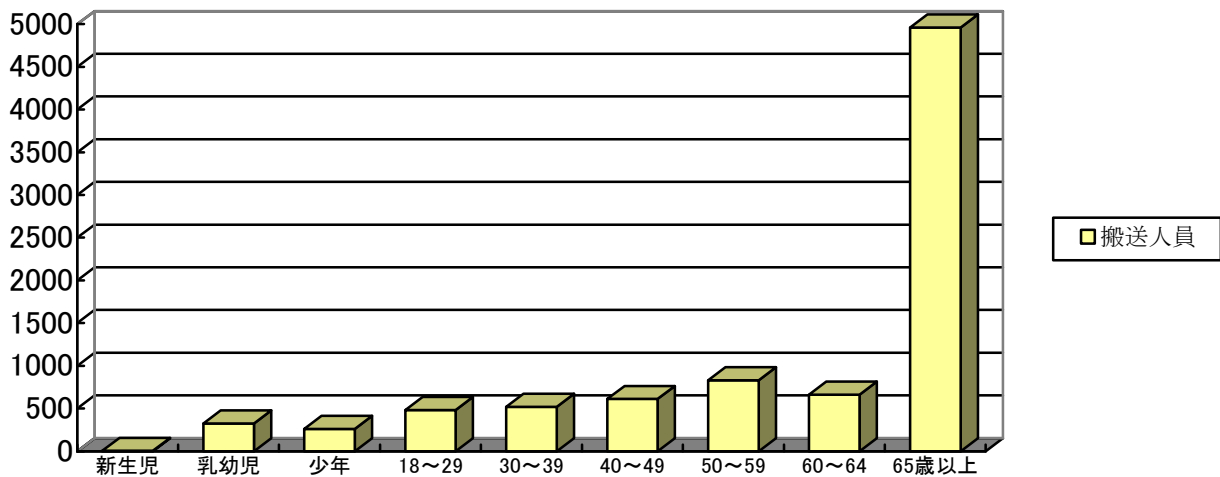


表 7 傷病程度別搬送人員状況

程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	186	910	3,628	3,919	10	8,653

※ 傷病程度区分

死 亡→初診時に死亡確認したもの

重 症→3週間以上の入院が必要なもの

中等症→入院が必要で重症に至らないもの

軽 症→入院を必要としないもの

その他→医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

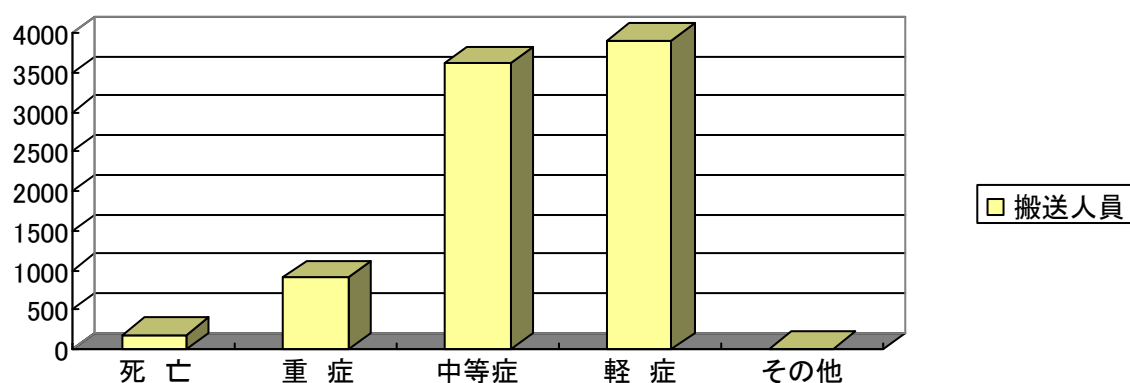


表 8 救急隊員が行なった応急処置

応 急 処 置	件 数	応 急 処 置	件 数
止血・被覆	517	聴診	898
固定処置	574	血中酸素飽和度測定	8,306
人工呼吸	17	心電図波形観察	2,064
心肺蘇生	220	除細動	20
酸素吸入	2,006	器具を用いた気道確保 (特定行為)	26
気道確保	256	静脈路確保 (特定行為)	17
血圧測定	7,575	薬剤投与 (特定行為)	2
在宅療法	72	その他	5,405
合 計		27,975	

表 9 救命講習実施状況

区分	対 象	消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防 災組織	学校関係	団体 グループ	その他	合 計
		回数	1							2
上級救命講習	人員	8						26	34	
普通救命講習	回数			19		8	16		14	57
	人員			191		122	385		125	823
一般救急講習	回数			28	5	5	80	21	14	153
	人員			638	140	265	4,012	434	173	5,662
普及員・指導員 養成講習	回数	1							3	4
	人員	2							22	24
上級救命再講習	回数			1				1	1	3
	人員			4				7	1	12
普通救命再講習	回数			19		13	6	1	14	53
	人員			127		104	20	18	62	331
普及員再講習	回数			1					6	7
	人員			5					33	38
合 計	回数	2	0	68	5	26	102	23	54	280
	人員	10	0	965	140	491	4,417	459	442	6,924

表 10 過去 5 カ年の救命講習実施状況の推移

区分	年				
	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
実施回数	339	345	245	299	280
受講者数	8,982	8,723	4,698	7,227	6,924

